

答申（案）に対するご意見と対応内容

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
1	【全体】	「交付金」の金額が記載されていないので、資料2のタイトルである、 「…より効果的な活動となる交付金のあり方について」が、資料2の本文中で観念的な説明に終わり、この点の重要度が読み手に伝わらない。資料3（アンケート結果）において、一部のコミュニティ（以下、「コミ」）が 「500万円」と記述しており、「交付金」の14コミ全体規模は、60百万円程度と推察する。 例えば、60百万円が川西市の支出予算額において比率〇%と大きいので、 「…より効果的な活動となる交付金のあり方について」を検討することに意義があると記述する。 つまり、金額と論点「交付金のあり方」の関連性の記述が必要と考える。	交付金のあり方について諮問をされていることから、交付額の記載をすることで、見直すことの重要性がより伝わるものであると思われます。 第1章への追記を検討します。	第1章の「一括交付金」の初出箇所注釈にて令和6年度の交付総額を記載しました（決算成果報告書より引用） 【2ページ】
2	【全体】	主語が判り難く、文章をよく読まなければ、推進会議の意見だと認識できない。	答申については、市は受け手であり意見をする側ではないため、すべて推進会議の意見となることから「推進会議としては～」という主語は省略しています。	
3	【5ページ】 第3章 【13ページ】 第4章	資料2について、答申の主体は「川西市参画と協働のまちづくり推進会議」（以下、「推進会議」）であるにも拘らず、川西市の主張に外見上見えるところがある（後述の二箇所） ①5頁の最終パラグラフ：冒頭に「市としては」と記述すると、主語が「市」のように見える。以下の修正が必要である。 「一括交付金を交付する立場の市に、ルール作りや…方策の提示を求める。」 ②13頁：第3パラグラフ冒頭に、「市として、」とすると、上述のとおり、主語が「市」のように見える。 「市として、」を削除して、「市のそれぞれの所管課」とすればよい。	第2回推進会議後に修正を検討します。	第3章は市の位置を修正【4ページ】 4章は市の位置と共に、文章の構成を含めて全体を修正しています【12ページ】
4	【3ページ】 第2章	第2章の第1パラグラフ：1文が9行に亘り、長すぎる。1文を2-3行程度にしなければ、読み手の頭に文章が残らない。	第2回推進会議後に修正を検討します。	段落を可能な限り短くなるように修正しました【3ページ】

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
5	【4、5 ページ】 第3章	第3章の第2パラグラフ：ここも、1文が8行である。長い。	第2回推進会議後に修正を検討します。	段落を可能な限り短くなるように修正しました【4 ページ】
6	【5 ページ】 第3章	5頁の図：四つの視点①-④があるなかで、②と③の上に、「コミュニティ活動への参加」が記述されている。 ②と③が「コミュニティ活動への参加」に関する事項であることを言いたいと思われるが、7頁以下を読まなければ、判らない。 図から「コミュニティ活動への参加」を削除したほうがよい。 また、図を挿入する以上、図番号が必要である。	第2回推進会議後に追記、修正を検討します。	①図表前の第4段落で、運営・参加・周知についてを4つの視点から提言する旨を記載し、図の意図が分かるようにしました【4 ページ】 ②図番号を追記しました【5 ページ】
7	【6 ページ】 視点1 市への提言	第3章視点①：市への提言のなかで、「ツール等を提供すること」とある。「ツール等」が何を指すのか判らない。 新たな、制度設計のことか。	コミュニティ組織が事業の整理や振り返りができ、共有化などが図れるようなワークシートや様式などイメージしています。 伝わりやすい表現となるように、第2回推進会議後に記載の見直しを検討します。	情報や手法、仕掛け等と修正しました【6 ページ】
8	【6 ページ】 視点1 コミュニティ組織への提言	コミュニティ組織への提言：一つ目に「コミュニティ組織間」と記述すると、Aコミュニティ組織とBコミュニティ組織の関係を指す。 資料3のアンケートを読むと、コミュニティ組織内部の複数機関を意味するものと考ええる。	分かりやすい表現への見直しを検討します。	コミュニティ組織への提言1つ目の記載を修正しました【6 ページ】
9	【7 ページ】 視点1 主な意見	7頁：「PDCA」について脚注で説明を要する。	第2回推進会議後に追記を検討します。	注釈を追記しました【6 ページ】

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
10	【8ページ】 視点2 補足	視点②：8頁において、「市への提言」、「コミュニティ組織への提言」と続く「補足」の位置づけが判らない。 「市への提言」の補足なのか、「コミュニティ組織への提言」の補足なのか判らない。 補足の内容からすると、視点①の本文中に、「後述する有償ボランティアについて」と前置きすればよい。	第2回推進会議後に記載方法の見直しを検討します。	本文内への記載に修正しました【7ページ】
11	【9ページ】 視点3	視点③：第1パラグラフの「自由席」を理解できなかった。第3パラグラフの「指定席」を読み、初めて、「自由席」を理解できた。先に「指定席」を記述し、後に「自由席」を記述するほうがよい。	逆にしても、文章上問題が無く「自由席」の表現が理解しやすくなるかと思しますので、第2回推進会議後に記載方法の見直しを検討します。	指定席と自由席の順番を入れ替え、視点③の文章全体を整理、修正しました【8～9ページ】
12	【9ページ】 視点3 補足	「補足」：上述のとおり、位置づけが判らない。補足の内容からすると視点③の本文中に挿入するのがよい。	第2回推進会議後に記載方法の見直しを検討します。	本文内への記載に修正しました【9ページ】
13	【11ページ】 視点4	視点④：11頁の第1パラグラフ、「これまで3つの視点から」のところ、1文字シフトしてください。	修正します。	修正済み【10ページ】
14	【11ページ】 視点4	第3パラグラフ「自分ごと」、第4パラグラフ「交付金は公金」：これらの指摘は重要です。この重要性を担保するために上述のとおり、交付金の金額に触れることが必要である。		交付総額については第1章で記載したことから、この章での再記載はしません。

意見 番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
15	【13ページ】 第5章	第5章（おわりに）：第1章（はじめに）と論旨を整合させるうえで、重要な章である。 同章の骨子「市は交付金見直しへの筋道を示すこと」と「市は前向きな見直しを行う」の「見直し」という 重要なキーワードが12頁以前に出ていない。個人的には、「見直し」を入れるべきものとする。 しかし、12頁以前に、交付金見直し等が論述されていない以上、同章の記述に違和感がある。 また、同章は1文が7行にも亘り、長すぎる。穿った見方をすると、「見直し」を挿入するために、同章の前半の結論に、「見直し」をアポイントしたように見える。	それぞれの提言内容すべてが見直しである（見直しに繋がるものも含む）という捉え方をした記載としておりますが、伝わりやすくなるような記載のあり方を検討します。	第5章については、交付金が当初の理念としていた活用ができるようにするために、実践的で実効性の高い制度となるように運用し続けていくこと（答申で終わりではなく、答申を受けて市が運用できるあり方を示していく、次のステップがあること）が読み取れるような文章に、全体を修正しています【13ページ】
16	【2ページ】 第1章	下から3行目実際に～の部分の流れの中で「自分ごとにしないといけない」という表現がピンとこない。分かりやすい表現があれば、その方が伝わるのではないかと。	第2回推進会議後に記載方法の見直しを検討します。	「自分ごとにしないといけない」「交付金は自分のお金でもある」と併記をしておりましたが、交付金のあり方についての諮問であることから「交付金は自分のお金でもある」のみを記載する形に修正しました【2ページ】
17	【4ページ】 第3章	「交付金の使われ方が分かりやすく、知しやすいこと」と言う表現が分かりにくい。	第2回推進会議後に記載方法の見直しを検討します。	「交付金の存在と、その意義や活用について知ってもらうこと」と修正しました【4ページ】
18	【11ページ】 視点④	やはり受け手が「自分に関係のあること」だと捉えてもらうことができる周知をすることが重要であり、そのためには「交付金は公金でもある」～～ ↓ やはり受け手が「自分に関係のあること」だと捉えてもらうには、周知をすることが重要であり、「交付金は公金でもある」～～ とする方が分かりやすいのではないかと。	第2回推進会議後に修正します。	視点④については、全体的な表現が伝わりやすくなるように文章全体をシンプルな構成に修正しました【11ページ】

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
19	【全体】	福祉委員会の会計担当の方から、コミュニティへの会計報告の書類作成の内容が複雑で負担になっているという話を聞いている。 実務を担う方あってのことだと思うので、負担軽減につながるような内容がもう少し反映されていれば良いのではないかと思います。	視点③の市への提言や具体的な取組み例等の記載のあり方等を検討します。	視点③の市への提言 1 つ目に コミュニティ組織に新たに関わる人の発掘や、コミュニティ組織間での連携や交流により、関わる人の負担軽減や活動の楽しさに繋がるサポートを、市民活動センターも一体となり検討すること 2 つ目に 専門的な知識が必要な場合でも、知識習得の機会やスムーズな引継ぎができるような支援を検討すること として、意向を反映した内容に修正しました【9 ページ】
20	【全体】	市とコミュニティに対して提言されているが、両社がそれを受けてどうアクションをするのか、そしてフィードバックがあるのかという部分にまで及んで書き込んでいくべきではないか。	市とコミュニティ両者への提言を記載していますが、基本的に答申の受け手は市であり、5章に記載のとおり、市が提言の内容を受けてコミュニティに対して見直しの道筋を示し、見直しを実施していく（アクション）という捉え方をしていただければと考えています。	第3章に市がコミュニティが効果的に交付金を活用しやすい方策を示すことを求めると記載【4 ページ】 第5章については、交付金が当初の理念としていた活用ができるようにするために、実践的で実効性の高い制度となるように運用し続けていくこと（答申で終わりではなく、答申を受けて市が運用できるあり方を示していく、次のステップがあること）が読み取れるような文章に、全体を修正しています【13 ページ】
21	【6 ページ】 視点 1 市への提言	市への提言のなかで、ツール等を提供するとあるが、ツールが何なのか少し理解できなかった。	分かりやすい内容に修正を検討します。	情報や手法、仕掛け等と修正しました【6 ページ】
22	【全体】	一括交付金の実施から11年が過ぎました、しかしながらその認知度は低く R.6 年度市民実態調査での結果数値でも、まちづくり会議委員の認識においても始めはコミュニティという組織も一括交付金も「知らない」が大半でした この現実を変えて行くためには、既存の事例や認識から離れることで新しい事が見えてくるかもしれません 自分がコミュニティ組織の1人である事やそのコミュニティがより良くなるために市から一括交付金が支払われていると言う事を解りやすく知る機会があると良いなと思いました	第1章、2章においても「知らない」「参加していない」という前提があることを導入として記載しており、その状況を変えるためには、何か1つを変えるだけでは効果が無いと捉え、それが4つの視点からの提言に繋がる部分と考えています。 視点1～3は既存の事例や認識を振り返り、活動や関わり方を見直し、それらを踏まえて視点4の周知が必要であるという捉え方としています。	答申においては、ご意見の内容に沿った提言が記載できていると考えています。 より「自分ごと」に繋がる周知（知る機会）については、委員の皆様からのご意見をいただいている市の広報誌の活用のあり方など、視点4の具体的な取組み例を踏まえ、市が答申を受けて、交付金本来の柔軟性（誰もが関わられる）と透明性（誰もが知っている）の高い活用ができる対応を検討していくことになると考えています。

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容（第2回推進会議前～会議後の意見）	事務局としての説明、検討の方向性	検討を踏まえた対応内容
23	【全体】	ある地方の町での実話を本で知り印象的でした、古くから町ぐるみで創作の劇をするのです劇を創る人も観客も同じ町の人、時には町から出た人も戻ってきて係る事もあるそうです。 町全体で「同じ目標を持つこと」でそこに向かってそれぞれが力を出し合い連帯感を感じながら楽しんでいる様子が伝わりました。これは参考に出来ないかと考えてしまいました。 では川西のコミュニティで「同じ目標を持つこと」を考えると何をすれば良いでしょうか？ 例えば 14区分のコミュニティ対抗で「〇〇〇大会」（〇〇〇は綱引き・モルック・紙飛行機など）をするとします、参加費を（運営費や賞金代）集めるようにし各コミュニティの一括交付金から出して貰います。 そうなれば 一括交付金が認識され役立ってきたことも理解し、また新しい交流も内外で生まれ連帯感と共に自分もコミュニティの1人と自覚する機会になると思います 若い学生さんの参加者も増えたらいつか新しい地域の担い手になるかもしれません	地域で同じ目標を持つためのツールが「地域別計画」であり、そこに多くの住民が関わることを課題意識を持つためにも重要であることを視点3に記載しています。 また、交付金や地域課題解決についての認識ができていない現状を踏まえ、視点1の具体的な取組み例として、効果検証や共有の場づくりとして「自慢大会」の開催を記載しております。	「同じ目標を持つこと」については視点3で、その関わりのあり方を記載できているものと考えています。 14コミュニティ対抗の大会等については、具体的な大会内容等には触れず、自慢大会などの繋がりや共有の機会を持つ中で、それぞれのコミュニティや住民が新たに必要だと思う交流や繋がりの方が、生まれていくことが望ましいものと考えています。